

# 家畜衛生広報



## ながの

長野家畜保健衛生所  
北信家畜畜産物衛生指導協会  
〒380-0944 長野市安茂里米村1993  
Tel 026-226-0923 Facs. 026-227-2665  
E-mail:nagakachiku@pref.nagano.lg.jp

## 新しい年にあたり

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、6月に富岡製糸場が「世界文化遺産」に登録され、11月にはノーベル物理学賞に青色LEDを開発した赤崎勇、天野浩、中村修二の3氏が受賞するなど明るいニュースがあったものの、2月の大雪、8月の木曾地域での大雨、9月の御嶽山噴火、11月の長野県神城断層地震の発生など、県内での自然災害の発生が非常に目立った1年でありました。

一方、家畜衛生を取り巻く状況をみますと、韓国で猛威をふるっている高病原性鳥インフルエンザH5N8が、4月には熊本県、12月には宮崎県、山口県で発生しました。本病は、ドイツや米国でも発生があり、世界的な流行が懸念されています。また、口蹄疫も韓国をはじめ東アジアを中心に続発しています。

これらの家畜伝染病は、本県でいつ発生してもおかしくない状況にありますので、畜産農家の皆様におかれましては、家畜・家きんの健康観察、畜舎の消毒の励行、関係者以外の農場立入の制限、野鳥やネズミなど野生動物の侵入防止のための防鳥ネットの点検などの再度の徹底をお願いするとともに、異状を発見した場合には直ちに当所や担当獣医師に通報するようお願いいたします。

終わりに、本年が皆様方にとって良い1年となりますとともに、家畜防疫にとっても平穏な年であることを祈念申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

私たち所員一同、一丸となって皆様とともに家畜衛生の向上並びに畜産の振興にまい進して参りますので、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

長野家畜保健衛生所長 久米田 章仁

**踏み込み消毒槽は伝染病予防の第一歩**

まずは踏み込み消毒槽を畜舎に置きましょう

〈めん羊、山羊を飼育する皆様へ〉

## 分娩の季節となりました。準備は万全ですか？



年明けから春にかけての季節は、めん羊、山羊の分娩ラッシュです。

母畜、子畜の健康管理に注意しましょう。

今回は、めん羊、山羊の分娩前から哺乳のポイントについて紹介します。

### 分娩準備(12月~1月)

#### 母畜

- ・母体の汚毛を毛刈りし、分娩に備えましょう
- ・分娩1ヶ月前から濃厚飼料を増やしましょう

### 分娩(1月~2月)

#### 母畜

- ・畜舎のすきま風を防ぎましょう
- ・敷料は良く乾燥させ、十分に敷きましょう



#### 子畜

- ・初乳はすぐ生まれたら直ぐ飲ませましょう  
→30分以内に初乳を飲ませ、8時間以内に体重1kg当たり50mL以上飲ませます
- ・吸入する力のない子畜は、胃チューブを使って初乳を飲ませます  
→出来るだけ子羊の首を伸ばし、口から優しくチューブを入れます。  
ここで咳き込むようであれば、気管に入っています。  
チューブを吸って、空気が戻らなければ食道に入っていると判断しても良く、そのまま入れて胃に達すると、抵抗がなくなるので、少しチューブを引いて注射筒を装着し、その後、40℃に温めた初乳を50ml注射筒に吸い上げ、チューブに接続し、20秒程で注入します
- ・「低体温症」に注意  
→生まれたばかりの子畜は「低体温症」になりやすいのでとくに注意が必要です。  
体温が37℃以下に下がってしまった場合は、  
子畜を大きなビニール袋に入れ、大きめのバケツに張った42℃程度のお湯に袋ごと子畜を入れて保温します
- ・臍帯(へその緒)を消毒します  
→ヨードチンキを入れたポリ容器に臍帯全体を入れ、へその付け根に被せて揺すり、ヨードチンキが全体に行きわたるようにします

